



中村俊定文庫

文庫 18

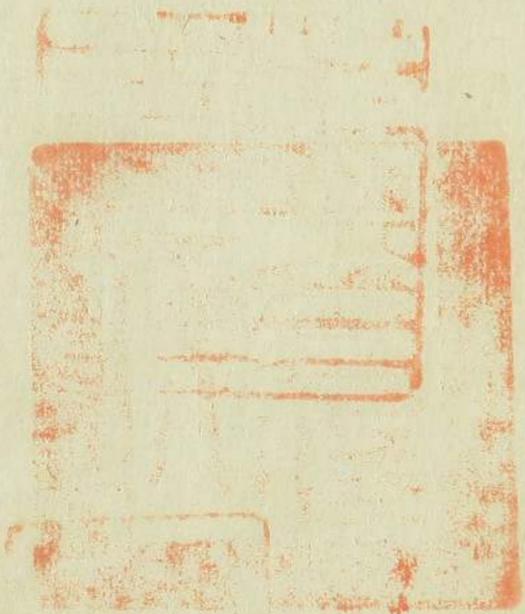
819



朱
の
葉

中村俊定文庫
文庫 18
819

一十段文 朱の葉



十文一葉の紙

蝶の春秋花——あふたのこ 蘭花をいへ—
ちんねんをいへるまゝにうらまへるのあふたをいへ
とてあふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
瑞龍精舎をいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ

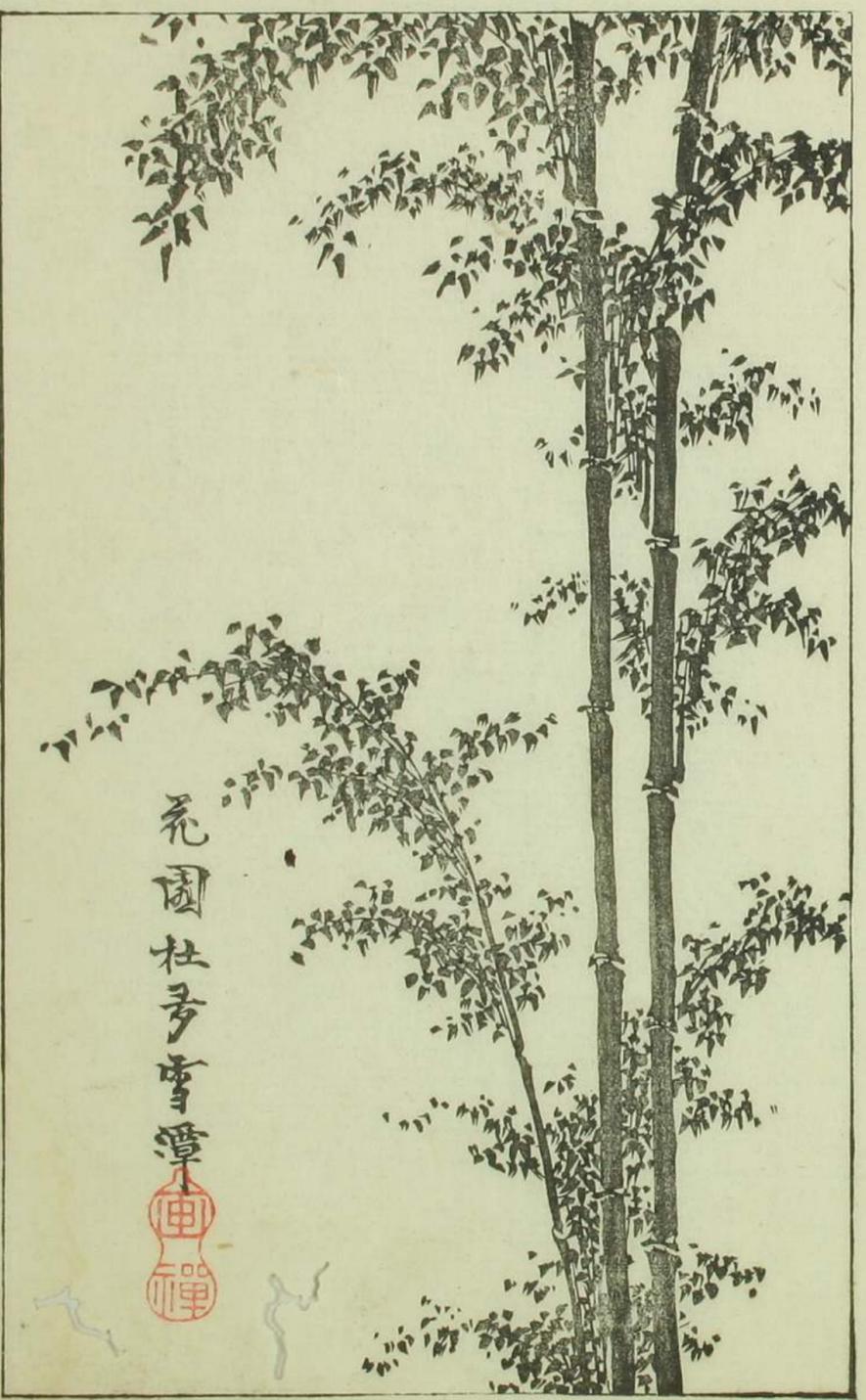
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ
あふたのこをいへるまゝにうらまへるあふたをいへ

海からと来た
 道は川のせまりに
 ゆるゆると其のたもとに
 たのよは待りて今も
 かに舟の音をきく

実夏

拓魚之居士

又いふ歌
 舟の音をきく位は



花園杜多亭潭



いっのちふ藤入さいたれよ
 岳泉
 新懺法のうらまをむく
 住持
 むじやうしんしんくはなを
 文琴
 ちるるもあま鴨のらよ
 三東
 あま神の頂まゆいそんを
 竹若
 夏敷おくあまのたうら
 江島
 さきふたおのあまのうら
 錦風
 しんはしんしんしんしん
 常山

流るるまはらふ船の小くまに
 几涯
 山伏あまの出来ぬ世の中
 孤悃
 そのまはしんしんしんしん
 梅三
 ちつたあまの梅の末の月
 姫山
 桑嵐の尾のさうれあまの
 里玉
 人々銀貨片さのやさぬ
 毒十
 あまめくうらまをむく
 吳山
 櫻松のあまをさはしんしん
 大翠

あり水の思居およも 此くもよる
 近遊の面談 ありしつる
 草海取らよるつもの可道他
 とふやゆりぬ電とふいふ
 花はくも何集もも鳴あはせ
 陽花祥と 吾ふふふ
 李奥
 杜鵑
 昂九
 等々
 奇深
 執筆

右

宗匠
 梅價
 右宗匠
 昂九

執筆
 對青
 出香 銘彦也
 其嵩
 知事
 余照
 執事
 岳泉
 坐己
 文鷲

貴人座
 法攝奇洲
 以下各著坐略々

花のゆきわ〜雪のけさふ
 極ちけ杯、ぬく〜る〜る
 あら〜錦瓶のかい〜人
 采代搗こ粉を扱き水の海、雪
 お馬のねい、きと、さ〜ね
 毎日のおねを余ふ〜る〜る
 の月々、嬉〜あめい〜る〜
 け〜けのこ〜の角とおいなり
 外 併 外 價 、 外 併

ころちき〜醜のほ〜る〜
 小筆う〜ぬ〜る〜大〜る〜
 本錦搗〜る〜度い〜る〜
 あけ〜る〜雪〜る〜の〜
 つ〜あ〜る〜け〜る〜る〜
 后圓呂竹乾ふ〜る〜水入〜る〜
 旬〜る〜る〜年〜極〜る〜
 ち〜る〜る〜軒の〜る〜
 外 併 外 價 、 外 併

中候やさしりーりつるふ記居
 甚るる甚るる孫や 神年月
 ねむされの娘つねめくそむらむ
 ねねのこころのの 序の巻
 くらあふのまの けの 掛し板
 五口ののこころの ねのこめ
 ねのこころの ねのこめ
 天來 柳うき

白蟬
 玉泉
 橋学
 風也
 一雨
 寸樂
 友翠
 一路

竹のうゝも 笛やうゝも 雪の音 味郡山 楳 日
 きり 隣りゆゑ 宗の音 表のねん 泉佐野 表 石
 うゝも 鳥の音や ありや 梅の音 泉佐野 梅 雪
 うゝも うゝも うゝも 塵を 造るなり 左内 麦 石
 けりや うゝも 娘の音 ありや 梅の音 河内 藻 雨
 うゝも うゝも うゝも うゝも 梅の音 伊都志原 指 月
 うゝも うゝも うゝも うゝも うゝも 一上野 丸 松
 うゝも うゝも うゝも うゝも うゝも 巴 村

一 枝よ おゝも うゝも うゝも 伊都志原 推 巳
 ふうりや うゝも 萩の音 ありや 梅の音 霞涯 霞 涯
 あゝ 旅の音や ありや 梅の音 尾張 いん 原
 うゝも うゝも うゝも うゝも うゝも 冬内 卓 池
 うゝも うゝも うゝも うゝも うゝも 甲斐 塞 馬
 山里や うゝも うゝも うゝも うゝも 甲斐 嵐 外
 草の音や ありや ありや ありや 甲斐 壱 行

家老らちや〜〜〜
 ま〜〜〜
 あ〜〜〜
 田の村〜
 入の〜
 路の〜
 天洲
 日人

信使

上野

陸奥

幕らち〜
 人の橋〜
 人〜
 太節
 養物
 兀雨
 龍尾
 史子

出羽

吉野

阿徳のこらあふちうゝ水の音
 蕉雨のこらあふちうゝ水の音
 志心近にのこらあふちうゝ水の音
 奇松のこらあふちうゝ水の音
 梅のこらあふちうゝ水の音
 孤静のこらあふちうゝ水の音
 淇園のこらあふちうゝ水の音

松魁のこらあふちうゝ水の音
 高雄のこらあふちうゝ水の音
 雲居産のこらあふちうゝ水の音
 内海舟越角蘇のこらあふちうゝ水の音
 野霍み休のこらあふちうゝ水の音
 玄陵のこらあふちうゝ水の音
 那栢のこらあふちうゝ水の音
 俵山のこらあふちうゝ水の音

湯殿
 しの
 魏
 北麟
 吳山
 竹賀
 る川
 梅人

西月
 屋鳥
 仙芥
 春社
 吳老
 一扇
 月祥
 紫雪

とらけの力のたむそくねのむ

浪花

奇俗

ころもや敷おほいれいおかりり

井眉

吹流の世あはるききり

公路

しんせいのんせい 水きよふれん

妹水

あふれりやあふれり 水もあふれり

一肖

あふれりやあふれり 水もあふれり

昇左

この世は一人の世はあふれり

等々

中の峰より所の流るる水

呂調

かく語りてあふれり

士容

あふれりやあふれり

子東

あふれりやあふれり

自樂

あふれりやあふれり

吾江

あふれりやあふれり

梧春

あふれりやあふれり

花盛

あふれりやあふれり

旭山

あふれりやあふれり

岳洛

去風や峰々々々々々々々々々々々
 けもむめの後姿をしきりか
 余亦のおくきくおくか
 十一年のあまのこ
 ゆく年を憶ふか
 けよのからあつて
 江のわたりに
 きのまふと

史節
 其督
 相隣
 一蕉
 春鶯
 松月
 辰角
 去思

くるおのこく余のねんか
 おくね水音あつて
 ねんかたつ星や伏水の
 ねんかたつ柳
 ねんかたつ投う
 ねんかたつおのこ
 ねんかたつおのこ
 ねんかたつおのこ
 ねんかたつおのこ

文書
 新内
 甘き
 娘山
 島十
 梅三
 里玉
 青山

東のむねや花の宿まらぬを
 かり原の形もやまの空
 りかきしるしむしむしの時
 指のあやちりうらたると串
 しゆのぬ水もあや春の尾
 箕のまゆもさかすか
 あさしるしむしむしの時

方石
 余思
 任枯
 横葉
 尾葉
 里泉
 岳泉

清はなやふしめあとの、
 しるしむしむしの時
 出那をよおのあふじ
 来る屋のあやこ
 けしる中一箇め
 けしるや門も
 むねの夕日た
 けしる

玉翠
 桂宮女
 琴抱
 如石
 竹左
 江丸
 白蟻
 青螺

子水
 江鳥
 竹節
 夜宅
 三東
 儿涯
 孤烟

毎道
 對青

奉泉
 蕙芽
 常雨

老女
 藍草
 少年

副伽の井おはゆるらよのまゝくろし那いぬ
そのついで今の世の金玉を出るじよては
侍り一はる社あをよめてて社本のいよめ
にまゝひてくろしやのいよとあしよめ
さよなごしや

載月園並不持徳

ふびりまゝ



浪華江戸堀菱一街

掃雲堂家蔵

文政十二戌子夏上梓



